

授業要項(令和6年度分)

3 年 生

理 学 療 法 学 科

授業科目名	リハビリテーション医学		(フリガナ) 担当教官名	馬庭 壯吉・酒井 康生・蓼沼 拓 高橋 幸男・山本 佳昭			
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 3年 作業療法学科 3年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	リハビリテーションが治療的手段として重要である運動疾患、脳血管障害、神経筋疾患、内部障害、小児疾患、精神疾患について学習する。リハビリテーションの阻害因子や予後を左右する要因を検討するための検査法について学ぶとともに、障害の評価、治療、およびセラピストとしての患者さんへの接し方について学習する。						
到達目標	障害の評価及び治療方針を立案することができる。						
回数	授 業 内 容						担 当
1	脳卒中のリハビリテーション 脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血の治療および高次脳機能のリハビリテーション						山本佳昭
2-3	神経筋疾患のリハビリテーション パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症等の変性疾患とリハビリテーション 内部疾患のリハビリテーション						酒井康生
4	整形外科疾患のリハビリテーション・関節リウマチのリハビリテーション						馬庭壯吉
5	脊髄損傷、切断のリハビリテーション						蓼沼 拓
6	小児のリハビリテーション						蓼沼 拓
7	精神疾患および認知症のリハビリテーション						高橋幸男
8	がんのリハビリテーション 乳がん、大腸がん、胃がん、肺がんとリハビリテーション、がん患者の生活機能と生活の質の改善を目標とする医療ケア						蓼沼 拓
アクティブ ラーニング							
評価基準	期末試験 90%、出席状況 10%						
教科書	目でみるリハビリテーション医学 (第2版)・上田 敏・東京大学出版会 リハビリテーション医学テキスト (改訂第5版)・三上真弘、出江紳一 (編) 南江堂						
参考書	標準整形外科学 (第14版) 編集・井樋、吉川、津村、田中、高木 現代リハビリテーション医学 (改訂第4版)・千野直一 編集・金原出版						
実務経験に 関する記述	整形外科専門医およびリハビリテーション科専門医、老年精神科専門医、義肢装具適合判定医等の認定を持ち、大学病院等で臨床診療に携る医師が、日々の診療で経験した症例や体験談、模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。						

授業科目名	チーム医療論演習		(フリガナ) 担当教官名		ヤマモト マリ子		
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 3年 作業療法学科 3年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	少子高齢化が進み、医療機能も地域全体で治し、支える「地域完結型」の体制構築への変化を迎えている中で、所属施設内外の専門職種と連携・協働する力は医療専門職として必須である。本科目ではこれまでの多職種連携科目での学びを復習すると共に、学外者との地域の課題分析、解決策を見つけるワークを通じて、他職種間でのコミュニケーション技能を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他職種間におけるコミュニケーションの基本理論を理解し説明できる。 ・他職種の思いを引き出すことができる。 ・他職種に意思を伝え、課題を分析し、解決案作成することができる。 						
回数	授 業 内 容						担 当
1	多職種連携について、コミュニケーション論、チーム医療論、医療コミュニケーション演習での学びについて振り返り、チーム医療論演習の目的、概要について説明する						山本真理子
2	事前ワーク；SDGs とは何か調べ、テーマに合った取り組み例を挙げてみる						山本真理子
3	事前ワーク；奥出雲町の現状について調べてみる						山本真理子
4	事前ワーク；提示されたテーマについて、奥出雲町内での課題を考える						山本真理子
5	事前ワーク；考えた課題に対する改善策についてPT・OTの視点で考えてみる						山本真理子
6	各テーマについて、奥出雲町内での課題を考える						山本真理子
7	学外者とワーク・課題立案						山本真理子
8	学外者とワーク・課題立案						山本真理子
9	考えた課題に対する改善策についてPT・OTの視点で考えてみる						山本真理子
10	学外者とワーク・解決策立案						山本真理子
11	学外者とワーク・解決策立案						山本真理子
12	発表資料作成						山本真理子
13	発表資料作成						山本真理子
14	発表						山本真理子
15	まとめ：学外者との改題・解決案作成のワークを通し、他職種連携の視点で振り返り						山本真理子
アクティブ ラーニング	SDGs をテーマに地域について学生同士および学外者とグループワークを行い、問題点から、課題解決策を作成し、発表する。						
評価基準	授業内での態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況等）及び課題から総合評価 100%						
教科書	適宜紹介						
参考書	適宜紹介						
実務経験に 関する記述	総合病院で専任作業療法士として従事し、その後、地域の拠点づくりに関わった経験を持つ教員が、地域の自主組織を連携し、住民の健康維持に向けた運動や作業の取り組みを支援する方法について、体験談や事例を踏まえて実践的教育を行う。						

授業科目名	研究方法論Ⅲ（実施と発表）		（フリガナ） 担当教官名	総括 <small>ハシ ムラ コウ ジ</small> 他 PT 学科全教員			
開講学期	通年						
対象学科 及び学年	理学療法学科 3年	時間数 単位数	60 2	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	研究方法論Ⅱで作成した研究計画書に基づき、調査、実験等を行う。その結果を考察し卒業論文を作成する。これらの活動を通して、基礎的な理学療法を実施できる研究能力の育成と、広い視野を養い、臨床的な疑問や問題に対する問題解決能力を身に付け、生涯にわたって「理論と実践の往還」の中で、学び続け成長していく意欲と基礎能力を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員の指導のもと、研究の実施ができる。 ・適切な統計手法を用いて解析しデータの処理することができる。 ・文献を用いて結果の解釈や考察ができる。 ・論理的且つ科学的根拠に基づいた論文 						
回数	授 業 内 容						担 当
1～5	研究計画に沿って調査、実験棟を行う。 教員はグループに対して指導・助言を行う。						PT学科教員
5～15	調査・実験を行う。 教員はグループに対して指導・助言を行う。						PT学科教員
16～18	卒業研究に関する実験、調査結果のデータの処理を行う。 教員はグループに対して指導・助言を行う。						PT学科教員
19～26	卒業論文執筆。 教員はグループに対して指導・助言を行う。						PT学科教員
27～28	発表するために卒業論文をパワーポイントにまとめる。 教員はグループに対して指導・助言を行う。						PT学科教員
29～30	卒業論文発表						PT学科教員
アクティブ ラーニング	グループワークにて卒業論文の作成、およびプレゼンテーションを行う。						
評価基準	取り組み姿勢、態度：20%、卒業論文の内容：80% ※期日までに卒業論文の提出がなかった場合は単位を認めない。						
教科書	適時プリントを配布する。						
参考書	なし						
実務経験に 関する記述							

授業科目名	理学療法マネジメント論 I		(フリガナ) 担当教官名	スズ	キ	テツ		
開講学期	前期			鈴	木	哲		
対象学科 及び学年	理学療法学科 3年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	病院や介護事業所等において組織が活動していくには、いかにして経営資源（ヒト・モノ・カネ・時間・情報）を有効活用していくのが重要である。本講義では、医療人および組織人として働くために、組織資源を有効活用するための基礎的知識および視点を習得する。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マネジメントの基本（業務・人・管理・改革）について説明できる ・マネジメントの知識を実際の現場（学校生活・病院・介護事業所等）に応用して考えることができる。 							
回数	授 業 内 容						担 当	
1～2	総論：マネジメントとは・PDCA サイクル・マネジメントの変遷（①業務②人③管理④改革）						鈴木 哲	
3	各論：①業務面への取り組み～組織を活かす～ 組織とは・ビジョンとミッション・目標設定と計画立案						鈴木 哲	
4	演習：業務面への取り組みに関するグループワーク						鈴木 哲	
5	各論：②人の面への取り組み～人の主体性を活かす～ 動機づけ・能力育成・介入方法（ティーチング・コーチング）						鈴木 哲	
6	演習：人の面への取り組みに関するグループワーク						鈴木 哲	
7～8	理学療法マネジメント I まとめ						鈴木 哲	
アクティブ ラーニング	「マネジメント」についてグループワークを用い、組織運営や課題解決について、事例を通じてディスカッションや発表を行う。							
評価基準	出席日数・授業態度 20% レポート課題 80% ※総授業回数の3分の1以上の欠席を未修とする。							
教科書	教材を適宜配布する。							
参考書	マネジメントの基本教科書・日本能率協会マネジメントセンター・2020							
実務経験に 関する記述	組織マネジメント管理を行っている教員が実例を示しながら講義を行う。							

授業科目名	理学療法マネジメント論Ⅱ		(フリガナ) 担当教官名		スズ 鈴	キ 木	テツ 哲	
開講学期	後期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 3年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	病院や介護事業所等において組織が活動していくには、いかにして経営資源（ヒト・モノ・カネ・時間・情報）を有効活用していくのが重要である。本講義では、医療人および組織人として働くために、組織資源を有効活用するための基礎的知識および視点を習得する。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マネジメントの基本（業務・人・管理・改革）について説明できる ・マネジメントの知識を実際の現場（学校生活・病院・介護事業所等）に応用して考えることができる。 							
回数	授 業 内 容						担 当	
1～2	各論：③管理～メンタルヘルスの観点から～ 健康経営とこれからのメンタルヘルス対策						鈴木 哲	
3	演習：管理に関するグループワーク						鈴木 哲	
4	各論：④改革～リーダーシップの観点から～ リーダーシップとは・リーダーとフォロワーの関係・リーダーシップ理論						鈴木 哲	
5	演習：リーダーシップに関するグループワーク						鈴木 哲	
6	その他：財務諸表の見方（貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書）						鈴木 哲	
7～8	理学療法マネジメントⅡまとめ						鈴木 哲	
アクティブ ラーニング	「マネジメント」についてグループワークを用い、組織運営や課題解決について、事例を通じてディスカッションや発表を行う。							
評価基準	出席日数・授業態度 20% レポート課題 80% ※総授業回数の3分の1以上の欠席を未修とする。							
教科書	教材を適宜配布する。							
参考書	マネジメントの基本教科書・日本能率協会マネジメントセンター・2020							
実務経験に 関する記述	組織マネジメント管理を行っている教員が実例を示しながら講義を行う。							

授業科目名	臨床理学療法評価学 I	(フリガナ) 担当教官名	理学療法学科教員				
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 3年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	本科目は、各種疾患に対する評価・測定とそれに基づく理学療法計画についての模擬演習を行う。指導教員のアドバイスを得ながら、臨床思考に基づき、分析および治療アプローチの実践を学び、問題解決思考を身に付ける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬患者から捉えられる事象や基本的情報を統合解釈し、問題点を抽出整理することができる。 ・予後予測を立て、具体的なゴールを設定することができる。 ・ゴールに向けた、効果的なアプローチを立案し、どのような結果が得られるのかを考えることができる。 ・発表に向けてレジユメを作成し、傍聴者に対して分かりやすくプレゼンテーションができる。 						
回数	授 業 内 容						担 当
1	オリエンテーション 具体的な演習の説明と前半の症例提示						理学療法学科教員
2~5	グループ毎に担当教員を配置し、担当教員の指導を受けながら演習に取り組む。ペーパーペイシエントを提示する。提示された情報をもとに、動作分析、統合と解釈、問題点の抽出と整理、予後予測、ゴール設定を行う。						理学療法学科教員
6~7	発表、フィードバック						理学療法学科教員
8	オリエンテーション 後半の症例提示						理学療法学科教員
9~12	前半と同様の形式にて取り組む。 後半は、理学療法プログラムの立案、考察までを行う。						理学療法学科教員
13~14	発表、フィードバック						理学療法学科教員
15	総括 振り返り						理学療法学科教員
アクティブ ラーニング	グループに分かれPBLを用いて、疾患および障がいに対する理解と治療アプローチを学修し、知識および問題解決思考を身に付ける。						
評価基準	取り組み態度 40%、レポート 40%、発表内容 20%にて判定する						
教科書	ペーパーペイシエント撮影した症例を提示する。						
参考書	適宜、資料を配布する。						
実務経験に 関する記述	総合病院や施設において、専任理学療法士として従事し、身体障害および老年期障害に対する個別理学療法を実践した教員が、理学療法の臨床過程を具体的に提示し、実践教育を行う。						

授業科目名	臨床理学療法評価学Ⅱ		(フリガナ) 担当教官名		理学療法学科教員		
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 3年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	<p>模擬患者に対して医療面接や検査測定を行い、臨床実習において必要な技術・技能を修得することを目的とする。理学療法学科専任教員が模擬患者、臨床実習指導者の役割を演じ、学生が問診、面接、基本的評価技術及び基本的な移動動作介助技術を様々な疾患別対象者の状態に応じて実技を行う。これによって理学療法評価に必要な接遇、対人コミュニケーション、患者様の病態の把握から理学療法評価プログラムの選択に至るプロセスを学び、優れた対応力や臨床能力を身につける。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬患者に対し適切なコミュニケーションを図り、問診、面接を行うことができる。 ・ 模擬患者の状態に応じて適切な理学療法評価プログラムを立案できる。 ・ 模擬患者への病態説明、理学療法評価の目的・方法の説明（インフォームドコンセント）ができる。 ・ 様々な状態の模擬患者に応じて、基本的理学療法評価および基本的な移動動作介助が実施できる。 						
回数	授業内容						担当
1	オリエンテーション 授業の概要と目的、内容、到達目標を理解する。						理学療法学科教員
2~3	医療面接とバイタルサイン測定の臨床技能 対象者の医療情報を的確に捉えるためのコミュニケーション手法や面接手法を習得する。加えて、血圧測定と脈拍測定の測定技術を習得する。						理学療法学科教員
4~5	動作介助の臨床技能 寝返り動作、起き上がり動作、座位保持、立位保持、立ち上がり動作、移乗動作等の起居動作介助の介助技術を習得する。						理学療法学科教員
6~7	脳血管疾患の臨床技能 脳血管疾患の模擬患者を対象に、疾患特有の病態、コミュニケーション技法、療法士面接、リスク管理、理学療法評価技術及び移動動作介助技術を習得する。						理学療法学科教員
8~9	神経筋疾患の臨床技能 神経筋疾患の模擬患者を対象に、疾患特有の病態、コミュニケーション技法、療法士面接、リスク管理、理学療法評価技術及び移動動作介助技術を習得する。						理学療法学科教員
10~11	整形外科疾患の臨床技能 神経筋疾患の模擬患者を対象に、疾患特有の病態、コミュニケーション技法、療法士面接、リスク管理、理学療法評価技術及び移動動作介助技術を習得する。						理学療法学科教員
12~14	実技発表 専任教員や学生間で、模擬患者および臨床実習指導者を演じ、模擬患者に対し、問診や面接の結果を踏まえた病態解釈と評価項目の立案に関する発表を行う。						理学療法学科教員
15	総括 実技発表に対する総括とフィードバック						理学療法学科教員
アクティブ ラーニング	グループに分かれPBLを用いて、疾患および障がいに対する理解と治療アプローチを学修し、知識および技術を身に付ける。						
評価基準	実技試験（80％）と参加の姿勢・態度（20％）にて評価する。 ※実技試験は、授業の後、客観的臨床能力試験を行い、理学療法の検査・測定に関する能力と、理学療法評価に必要な接遇、対人コミュニケーションを総合的に評価する。						
教科書	適宜、資料を配布する。						
参考書	松澤 正 理学療法評価学 改訂第5版 金原出版株式会社 才藤栄一 PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定 編 金原出版株式会社						
実務経験に 関する記述	総合病院や施設において、専任理学療法士として従事し、身体障害および老年期障害に対する個別理学療法を実践した教員が、理学療法の臨床過程を具体的に提示し、実践教育を行う。						

授業科目名	装具学		(フリガナ) 担当教官名		イシ クラ ヒデ キ 石 倉 英 樹			
開講学期	前期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 3年	時間数	30	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修	
対象学科 及び学年	作業療法学科 3年	単位数	1					
科目概要	装具の種類と基本的機構について学習する。 各疾患の病態・障害に対する装具治療について学習する。							
到達目標	臨床で使用されている装具について理解する。 各疾患に対して適切な装具療法を検討することができるようになる。							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	装具学概論 ・装具の概要						石倉英樹	
2	下肢の装具療法 ・下肢装具の部品とその機能						石倉英樹	
3	下肢の装具療法 ・短下肢装具						石倉英樹	
4	下肢の装具療法 ・長下肢装具、股装具、膝装具						石倉英樹	
5	下肢の装具療法 ・靴型装具						石倉英樹	
6	下肢の装具療法 ・下肢装具のチェックアウト						石倉英樹	
7	下肢の装具療法 ・下肢装具のチェックアウト演習						石倉英樹	
8	体幹の装具療法 ・体幹装具、側弯装具						石倉英樹	
9	上肢の装具療法 ・上肢装具、自助具						石倉英樹	
10	疾患に対する装具療法 ・脳卒中片麻痺						石倉英樹	
11	疾患に対する装具療法 ・整形外科疾患						石倉英樹	
12	疾患に対する装具療法 ・関節リウマチ						石倉英樹	
13	疾患に対する装具療法 ・小児疾患						石倉英樹	
14	疾患に対する装具療法 ・脊髄損傷						石倉英樹	
15	疾患に対する装具療法、講義総括 ・装具療法臨床場面における実際						石倉英樹	
アクティブ ラーニング	各疾患に装具療法に関する演習を行い、臨床場面に即した装具療法の実際について理解を深める。							
評価基準	期末試験 100% *ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 装具学 第2版 総編集 石川朗 中山書店 義肢装具のチェックポイント (第9版) 医学書院							
参考書	義肢・装具学 (羊土社) リハビリテーション義肢装具学 (メジカルビュー社)							
実務経験に 関する記述	病院や施設、支援学校での理学療法士としての臨床に従事した教員が、装具療法に関する経験をもとに講義を行う。							

授業科目名	整形外科系治療学		(フリガナ) 担当教官名		ハセガワ テツ ヤ・ヤマ サキ ケン ジ 長谷川 哲 也・山 崎 健 治 堀 江 貴 文			
開講学期	前期・後期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 3年	時間数 単位数	90 3	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修	
科目概要	整形外科疾患に対する理学療法を実施するために、病態、障害の回復過程について理解する。また、理学療法評価、治療技術、リスク管理、予防について、演習を通して学習する。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科疾患の病態、障害の回復過程について説明することができる。 ・必要な理学療法評価の項目を列挙することができる。 ・理学療法評価の実施方法を理解し、健常者（学生）に対して実施することができる。 ・教科書の範囲で、理学療法治療方法を列挙することができる。 ・理学療法治療方法を理解し、健常者（学生）に対して実施することができる。 ・教員の指導のもと模擬患者に対して、理学療法治療計画を立案することができる。 							
回数	授 業 内 容						担 当	
1~10	骨折 ①総論：骨折の種類、病態、合併症、リスク管理、医療的治療方針 ②各論：上肢の骨折に対する理学療法評価、運動療法理論 下肢の骨折に対する理学療法評価、運動療法理論 ③演習：Paper patient に対する理学療法評価項目の立案、治療計画立案						山崎健治	
11~12	脱臼 ①総論：脱臼の種類、病態、合併症、リスク管理、医療的治療方針 ②各論：上肢の骨折に対する理学療法評価、運動療法理論 下肢の骨折に対する理学療法評価、運動療法理論						山崎健治	
13~17	変形性関節症 ①総論：変形性関節症の種類、病態、合併症、リスク管理、医療的治療方針 ②各論：変形性股関節症に対する理学療法評価、運動療法理論、生活指導 変形性膝関節症に対する理学療法評価、運動療法理論、生活指導 ③演習：Paper patient に対する理学療法評価項目の立案、治療計画立案						長谷川哲也 山崎健治	
18~22	関節リウマチ ①総論：関節リウマチの病態、合併症、リスク管理、医療的治療方針 ②各論：関節リウマチに対する理学療法評価、運動療法理論、生活指導 ③演習：Paper patient に対する理学療法評価項目の立案、治療計画立案						山崎健治	
23~27	腰部疾患 ①総論：腰部疾患の種類、病態、合併症、リスク管理、医療的治療方針 ②各論：腰部疾患に対する理学療法評価、運動療法理論、生活指導 ③演習：Paper patient に対する理学療法評価項目の立案、治療計画立案						長谷川哲也 山崎健治	
28~31	末梢神経障害 ①総論：末梢神経障害の病態、合併症、リスク管理、医療的治療方針 ②各論：末梢神経障害に対する理学療法評価、運動療法理論、生活指導						堀江貴文	
32~37	脊髄損傷 ①総論：脊髄損傷の病態、合併症、リスク管理、医療的治療方針 ②各論：脊髄損傷に対する理学療法評価、運動療法理論、生活指導 ③演習：Paper patient に対する理学療法評価項目の立案、治療計画立案						堀江貴文	
38~41	肩関節疾患 ①総論：肩関節疾患の種類、病態、合併症、リスク管理、医療的治療方針 ②各論：肩関節疾患に対する理学療法評価、運動療法理論、生活指導						堀江貴文	
42~45	スポーツ障害・外傷 ①総論：スポーツ障害・外傷の種類、病態、合併症、リスク管理、医療的治療方針 ②各論：膝靭帯損傷、半月板損傷に対する理学療法評価、運動療法理論 捻挫と肉離れに対する理学療法評価、運動療法理論						堀江貴文	
アクティブ ラーニング	Paper patient を用いたグループ演習を行い、能動的な学習を促す。							
評価基準	100%中、中間および期末試験を80%、課題レポート10%、授業態度10%にて評価し、100%中60%以上を単位認定する。 ※総授業回数の3分の1以上の欠席を未修とする。							
教科書	理学療法テキスト 運動器障害 理学療法Ⅰ 第2版：中山書店 理学療法テキスト 運動器障害 理学療法Ⅱ 第2版：中山書店 標準整形外科学 第15版：医学書院							
参考書	運動療法学 第2版：文光堂 筋骨格系のキネシオロジー 第3版：医歯薬出版株式会社							
実務経験に 関する記述	整形外科学病院において、5年間専任理学療法士として従事し、急性期病棟、回復期病棟、医療療養病棟、外来における身体障害および老年期障害に対する個別理学療法を実践した教員が、整形外科的疾患の急性期および回復期から在宅復帰までの治療介入過程やリスク管理について具体的な事例を提示し、実技を含めた実践的教育を行う。							

授業科目名	神経内科系治療学		(フリガナ) 担当教官名	ゴ トウ トモ キ ユチ ダ フミカ 後 藤 智 基 ・ 内 田 美美佳 サ サ キ ショウ タ 佐 々 木 翔 太			
開講学期	通年						
対象学科 及び学年	理学療法学科 3年	時間数 単位数	90 3	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	脳血管疾患やパーキンソン病などの中枢神経系の変性疾患に対する理学療法評価と理学療法アプローチの基本技術に関して、演習を通じて身につけることを目的とする。各疾患に対するペーパーベシエントを用いてグループワーク形式で演習を行い、病態から必要な理学療法評価の選択、問題点の抽出と統合と解釈、理学療法プログラムを立案する神経内科系治療における一連のプロセスを学ぶ。						
到達目標	脳血管疾患、神経難病疾患に対するリスク管理、理学療法評価の選択、問題点の抽出と統合と解釈、理学療法プログラムを立案することができる。						
回数	授 業 内 容						担 当
1~4	脳の基礎知識（脳の構造や機能、伝導路）						後藤智基
5~6	脳卒中の病態						後藤智基
7~10	脳画像						後藤智基
11~12	脳卒中の理学療法評価						後藤智基
13~16	脳卒中理学療法の予後予測と治療基礎理論						後藤智基
17~21	脳卒中急性期のリスク管理と理学療法						後藤智基
22~26	脳卒中回復期、生活期の理学療法						後藤智基
27	高次脳機能障害に対する理学療法と特殊アプローチ						後藤智基
28~30	ペーパーベシエント～脳卒中に対する理学療法～						後藤智基
31~33	パーキンソン病の病態と理学療法						内田美美佳
34~36	脊髄小脳変性症の病態と理学療法						内田美美佳
37~39	筋萎縮性側索硬化症の病態と理学療法						内田美美佳
40~43	脱髄疾患の病態と理学療法						内田美美佳
44~45	神経難病に対する理学療法の実践						佐々木翔太
アクティブ ラーニング	各疾患でペーパーベシエントを提示する。各グループで必要な理学療法評価の選択、問題点の抽出と統合と解釈、理学療法プログラムを立案し発表を行う。						
評価基準	期末試験、課題レポートにて評価し、100%中60%以上を単位認定する。 ※総授業回数の3分の1以上の欠席を未修とする。						
教科書	神経障害理学療法学Ⅰ 第2版 中山書店 神経障害理学療法学Ⅱ 第2版 中山書店						
参考書	適宜配布する。						
実務経験に 関する記述	総合病院、福祉施設において、専任理学療法士として従事し、急性期病棟、回復期病棟、医療療養病棟、特殊疾患病棟、外来における身体障害および老年期障害に対する個別理学療法を実践する教員が、評価、問題点の抽出と統合と解釈、理学療法プログラムを立案する一連のプロセスを実践をふまえ教育する。						

授業科目名	小児科系治療学		(フリガナ) 担当教官名		アサノダイキ喜 浅野大喜		
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 3年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	子どもの定型発達の理解から、小児領域の疾患や障がいを理解し、評価や基本的理学療法への展開を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・正常運動発達、姿勢反射の発達概要を理解し、説明することができる。 ・発達障害を障害分類別に理解し、説明することができる。 ・子どもの整形外科疾患・遺伝性疾患を理解し、説明することができる。 ・知的障害、重症心身障害児の定義や臨床像について理解することができる。 						
回数	授 業 内 容						担 当
1	未熟児・新生児の発達理解						浅野大喜
2	未熟児・新生児の疾患						浅野大喜
3	新生児期のリハビリテーション						浅野大喜
4	小児疾患・病態の理解1 (先天異常・染色体異常など)						浅野大喜
5	小児疾患・病態の理解2 (神経・筋・骨系疾患)						浅野大喜
6	運動発達						浅野大喜
7	認知発達						浅野大喜
8	社会性の発達						浅野大喜
9	発達評価法						浅野大喜
10	リハ対象疾患の理解とアプローチ① 脳性麻痺						浅野大喜
11	リハ対象疾患の理解とアプローチ② 知的障害						浅野大喜
12	リハ対象疾患の理解とアプローチ③ 発達障害						浅野大喜
13	リハ対象疾患の理解とアプローチ④ 重症心身障害児、呼吸リハ、在宅訪問リハなど						浅野大喜
14	小児リハビリテーションガイドラインの理解						浅野大喜
15	まとめ						浅野大喜
アクティブ ラーニング	模擬の人形や実際の道具などを用いて、グループ別に訓練の体験、演習などを行う。						
評価基準	試験 90% 課題 10% 試験において 60 点未満は再試験を受験することができる。 総得点の 60% 以上を単位認定とする。						
教科書	Crosslink 理学療法学テキスト 小児理学療法 藪中良彦、木元稔、坂本仁 (編) メジカルビュー社						
参考書	Crosslink リハビリテーションテキスト 人間発達学 メジカルビュー社 子どもの感覚運動機能の発達と支援 メジカルビュー社						
実務経験に 関する記述	小児リハビリ分野において 20 年以上理学療法士として実務を経験した教員が、臨床で 経験した実例を提示しながら実践的教育を行う。						

授業科目名	スポーツ理学療法学		(フリガナ) 担当教官名		堀江貴文・川本晃平 蔦川和希・白築香		
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 3年	時間数 単位数	60 2	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	<p>スポーツ外傷および障害の基礎知識を理解し、実際にスポーツ選手へのリハビリテーションが実施できることを目標とする。また昨今、院外での活動需要も高まっており、スポーツ現場などで実際に選手や監督へコンディショニング方法や応急処置などが指導できるようにする。</p> <p>また一般社団法人キネシオテーピング協会インストラクターによる特別枠講義を設け、講義と実技演習を行う。受講後、希望者はキネシオテーピングトレーナー（CKTT）を取得出来る資格試験を受験することが出来、試験に合格すると資格を取得することが出来る。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・アスレティックトレーナーとして活動する理学療法士の意義や役割について理解し説明できる。 ・スポーツ外傷とスポーツ障害について理解し、それらの具体的な病態について説明できる。 ・スポーツ外傷に対する応急処置について理解し、実際に応急処置が円滑に実施出来る。 ・テーピングの基礎を習得し、主要なスポーツ障害・外傷に対する固定テーピングを円滑に実施することができる。 ・模擬症例に対し、適切な評価・治療項目を立案し、立案した項目を健常者に対して円滑に実施することができる。 ・キネシオテーピングの理論と実践方法を学び、基礎的なキネシオテーピングを円滑に実施することが出来る。 						
回数	授 業 内 容						担 当
1	スポーツ理学療法学 総論（講義） ・オリエンテーション ・理学療法士とスポーツ ・アスレティックトレーナーのと役割と活動内容						堀江貴文
2~3	アスレティックトレーナーの活動の実際（1）（講義）						川本晃平
4~5	アスレティックトレーナーの活動の実際（2）（講義）						蔦川和希
6~7	メディカルチェック（講義・実技） ・メディカルチェックの理論 ・メディカルチェックの実際						堀江貴文
8~9	コンディショニング（講義・実技） ・コンディショニングの理論 ・コンディショニングの実際						堀江貴文
10~13	応急処置（講義・実技） ・RICE処置 ・HOPPSによる評価手法						堀江貴文
14~16	テーピング（講義・実技） ・テーピング講義 ・テーピング実習						堀江貴文
17~20	スポーツ外傷・障害の概念とそれらに対する理学療法（講義・実技）						堀江貴文
21~26	ケーススタディ（グループワーク） ・模擬症例を用いた課題学習 ① 提示された症例の疾患に関して、病態・症状をまとめる。 ② 提示された症例の症状に対して、評価項目を立案する。 ③ 提示された症例の評価結果に対して、臨床思考図を作成する。 ④ 提示された症例の評価結果に対して、治療プログラムを立案する。						堀江貴文
27~30	キネシオテーピングの理論と実際（講義・実習） ・キネシオテーピング講義・キネシオテーピング実習						白築香
アクティブ ラーニング	前半で学んだ知識や技術を用いて、模擬患者に対する評価・治療項目の立案をグループワークによって実施する。その後、スポーツ選手に対するメディカルチェックやトレーニングの内容についてさらにグループディスカッションを通じて立案し、グループで実演を踏まえて発表する。						
評価基準	筆記試験（40%）、実技試験（40%）、演習課題への取り組み姿勢（20%）にて評価し、100%中60%以上を単位認定する。 筆記試験：授業内容の知識の定着を確認する。授業内の分野の講義時間数に応じた配点とする。期末試験においては100点満点中60点以上を合格とし、60点未満は再試験を受験することが出来る。 実技試験：提示されたスポーツ外傷に対するテーピングの実技試験を行い、その内容を評価する。 演習課題への取り組み姿勢：資料の作成、リハールサル、発表に至るまでの取り組み姿勢を評価する。 ※総授業回数の4分の1以上の欠席を未修とする。						
教科書	スポーツ理学療法学 第3版（メジカルビュー社）						
参考書	適時資料を配布する。						
実務経験に関する記述	鳥根県アスレティックトレーナー協議会認定トレーナーの資格を有する教員と、高度急性期病院で理学療法業務に従事している傍ら、アスレティックトレーナーの資格を有し、トレーナーとして社会人実業団や高校の部活動に介入している理学療法士が、救護方法や応急処置、身体評価と体調管理、トレーニング方法について教授し、さらに学んだ知識を用いて、高校・中学校部活動へ介入する実践的教育を行う。						

授業科目名	生活環境論		(フリガナ) 担当教官名		ウチダ フミカ オオツカ アキラ 内田 美美佳・大塚 彰		
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 3年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	障がい者や高齢者を含む全ての人に対応したQOLに基づいた生活環境について学ぶ。また、理学療法士が担当する代表的な疾患や障がいの事例から、生活評価と生活環境調整案をグループ検討により作成し、適切な環境整備を検討する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・建築に関する専門用語を理解し、段差解消、スペース、スロープ勾配、手すり、建具の特徴について説明することができる。 ・生活機能障害を分析し、学んだ知識を用いて適切な生活環境整備について検討することができる。 						
回数	授 業 内 容						担 当
1	生活環境学の考え方について						内田美美佳
2	生活環境の特徴と課題						内田美美佳
3	生活環境整備に関する法定制度						内田美美佳
4	生活環境整備の進め方						内田美美佳
5	生活環境整備の基本①						内田美美佳
6	生活環境整備の基本②						内田美美佳
7	玄関・アプローチの環境整備						内田美美佳
8	廊下・階段の環境整備						内田美美佳
9	トイレ、浴室・脱衣室の環境整備						内田美美佳
10	台所・食堂の環境整備						内田美美佳
11	環境整備演習①						内田美美佳
12	環境整備演習②						内田美美佳
13	ユニバーサルデザイン・共用品デザインから生活環境を考える						大塚 彰
14	リハ工学・支援工学から生活環境を考える						大塚 彰
15	生活環境と障がいを考慮した福祉用具（自助具を含む）の実際①						大塚 彰
16	生活環境と障がいを考慮した福祉用具（自助具を含む）の実際②						大塚 彰
アクティブ ラーニング	疾患や障がい事例について、生活評価と生活環境整備案をグループにて学習および検討し、発表する。						
評価基準	試験 80%、課題 20% 試験において 60 点未満は再試験を受験することができる。 試験得点の 60 点以上を単位認定とする。						
教科書	細田多穂 生活環境学テキスト 改訂第2版 南江堂						
参考書	木村哲彦 生活環境論 第6版 医歯薬出版株式会社						
実務経験に 関する記述	介護老人保健施設、通所サービスにて11年間の臨床経験を持つ教員が、在宅支援や生活支援等に必要環境調整、福祉用具選定等について具体的な事例を提示し、実践的教育を行う。						

授業科目名	地域理学療法論		(フリガナ) 担当教官名		ウチ 内	ダ 田	フ 美	ミ 美	カ 佳	キ ・	キ 木	ム 村	アイ 愛	コ 子
開講学期	後期				エン 遠	ドウ 藤	タケ 健	シ 史						
対象学科 及び学年	理学療法学科	3年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修						
科目概要	<p>高齢化が進展する現代において、地域や在宅で生活する障がい者や高齢者の増加が見込まれる。これらの人々に対する理学療法は、疾病および障害の予防的視点が求められる。本科目では、社会ニーズの要請に対応するべく、高齢者や障がい者、障害児の地域におけるリハビリテーションの関わり方を学ぶ。加えて地域ケア会議の実例を使用した演習および地域医療・健康増進科目で発見した奥出雲町の課題に対する解決策立案を行う。</p>													
到達目標	健康増進、障害予防への理学療法のかかわりについて理解できる。													
回数	授 業 内 容												担 当	
1	地域リハビリテーションの理解と社会的背景												内田美美佳	
2~5	地域診断の振り返りと課題整理、情報収集、課題解決立案												内田美美佳	
6	地域診断課題解決案発表												内田美美佳	
7~8	地域理学療法の実際 ケーススタディ①：高齢者に対する理学療法士の視点と取組み												内田美美佳	
9~10	地域理学療法の実際 ケーススタディ②：地域づくりにおける理学療法士の視点と取組み												内田美美佳	
11	地域理学療法の実際												木村愛子	
12	地域医療の取り組み												遠藤健史	
13	地域ケア会議演習①												内田美美佳	
14	地域ケア会議演習②												内田美美佳	
15	まとめ												内田美美佳	
アクティブ ラーニング	グループに分かれ事例検討を行い、課題発見・解決に取り組む。													
評価基準	グループワークの取り組み姿勢(課題の遂行状況、課題発表)、成果物、出席から総合評価(100%)を行う。													
教科書	適宜資料配布													
参考書	地域リハビリテーション学テキスト 改訂第3版 南江堂 地域理学療法学 第4版 医学書院													
実務経験に 関する記述	介護老人保健施設および特別養護老人ホーム、通所リハビリにて11年間臨床経験と、奥出雲町地域リハビリテーション事業の一環として地域住民の健康増進および介護予防事業を行政とともに支援している教員が、地域における課題と対策、理学療法士の役割について具体的な事例を提示し、実践的教育を行う。													

授業科目名	臨床実習Ⅱ	(フリガナ) 担当教官名	各臨床実習施設指導者・全専任教員				
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 3年	時間数 単位数	135 3	授業 形態	実習	必修・選択 の別	必修
科目概要	<p>本科目は、臨床実習施設において、実際の診療に参加しながら実践を通じて理学療法業務を学ぶ実習科目であり、臨床実習Ⅰに引き続き、理学療法士の業務について理解を深める。</p> <p>臨床実習Ⅰの目的に加え、臨床実習指導者の指導・助言のもと、適切な検査・測定方法を選択し正確に実施する能力、および検査・測定の結果を専門用語を用いて正確に記録する能力を育成することを目的とする。また、対象者とのラポールを築くため、目的に沿った医療面接の技術を育成する。</p>						
到達目標	<p>臨床実習Ⅰの到達度に加え以下の項目を到達度とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床実習指導者の指導・助言のもと、対象者に合わせた必要な検査・測定項目を列挙でき、一般的な方法を用いて正確に実施できる。 臨床実習指導者の指導・助言のもと、対象者あるいは家族に対して検査・測定に関するオリエンテーションが適切に実施できる。 検査・測定結果を専門用語を用いて正確に記録することができる。 臨床実習指導者の指導・助言のもと、適切な医療面接が実施できる。 						
授 業 内 容						担 当	
<p>臨床実習 時間：120時間（3週間：15日間） 場所：医療提供施設もしくは医療外施設 内容：社会人、医療従事者として相応しい意識や態度について指導を受け取組む。 臨床実習指導者の指導・助言のもと、対象者に合わせた必要な検査・測定項目が列挙でき、一般的な方法を用いて正確に実施する。また、検査・測定等に関するオリエンテーションを実施する。 詳細な日程は、臨床実習要綱を参照。 1週間の施設実習時間は、40時間（120時間）とし、家庭学習時間を含め45時間以内（135時間）とする。</p>						臨床実習 指導者	
アクティブ ラーニング	各臨床実習施設において、診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）を行う。						
評価基準	<p>総括的評価は学院教員にて実施する。</p> <p>オリエンテーションへの出席状況や態度、臨床実習中の状況、臨床実習最終状況（評価による評価結果含む）、臨床実習後の提出課題内容、実習報告会の内容を総合的に評価し成績判定する。</p>						
教科書	島根リハビリテーション学院 理学療法学科 臨床実習要綱						
参考書							
実務経験に 関する記述	臨床実習指導者は、5年以上実務に従事した者であり、かつ厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会あるいは厚生労働省及び公益財団法人医療研修推進財団が実施する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会を受講した者が担う。						

授業科目名	臨床実習Ⅲ		(フリガナ) 担当教官名	各臨床実習施設指導者・全専任教員			
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 3年	時間数 単位数	180 4	授業 形態	実習	必修・選択 の別	必修
科目概要	<p>本科目は、臨床実習施設において、実際の診療に参加しながら実践を通じて理学療法業務を学ぶ実習科目であり、臨床実習Ⅱに引き続き、理学療法士の業務について理解を深める。</p> <p>臨床実習Ⅰ～Ⅱの目的に加え、臨床実習指導者の指導・助言のもとに、得られた情報収集内容や検査・測定結果間の関連性を整理し統合・解釈し問題点を整理する能力を育成する。加えて、統合・解釈の思考過程を文章化する能力を育成することを目的とする。さらに、臨床実習Ⅳに向け治療アプローチの立案の過程を経験する。</p>						
到達目標	<p>臨床実習Ⅰ～Ⅱの到達度に加え以下の項目を到達度とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床実習指導者の指導・助言のもと、得られた情報収集内容や検査・測定の結果間の関連性を整理し統合・解釈できる。 ICIDHあるいはICFにもとづき問題点を整理できる。 統合・解釈の思考過程を経験症例カルテや経験症例レポートにて文章化できる。 治療アプローチ立案の過程を経験する。 						
授 業 内 容							担 当
<p>臨床実習 時間：160時間（4週間：20日間） 場所：医療提供施設もしくは医療外施設 内容：社会人、医療従事者として相応しい意識や態度について指導を受け取組む。 臨床実習指導者の指導・助言のもと、対象者の課題解決に向け、得られた情報収集内容や検査・測定の結果間の関連性を統合し解釈する。問題点を整理し、統合・解釈の思考過程を経験症例カルテや経験症例レポートにて文章化できる。 詳細な日程は、臨床実習要綱を参照。 1週間の施設実習時間は、40時間（160時間）とし、家庭学習時間を含め45時間以内（180時間）とする。</p>							臨床実習 指導者
アクティブ ラーニング	各臨床実習施設において、診療参加型臨床実習（クリニカルクラクシップ）を行う。						
評価基準	<p>総合的評価は学院教員にて実施する。</p> <p>オリエンテーションへの出席状況や態度、臨床実習中の状況、臨床実習最終状況（評価による評価結果含む）、臨床実習後の提出課題内容、実習報告会の内容を総合的に評価し成績判定する。</p>						
教科書	島根リハビリテーション学院 理学療法学科 臨床実習要綱						
参考書							
実務経験に 関する記述	臨床実習指導者は、5年以上実務に従事した者であり、かつ厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会あるいは厚生労働省及び公益財団法人医療研修推進財団が実施する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会を受講した者が担う。						

授業科目名	総合演習Ⅲ		(フリガナ) 担当教官名		ホリ エ タカ フミ 堀 江 貴 文		
開講学期	通年						
対象学科 及び学年	理学療法学科 3年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	本科目は、国家試験にむけた学習を進める。 専門基礎分野の復習と暗記、専門分野の知識の定着、問題の読解と方略を学ぶことを目標とする。						
到達目標	専門基礎分野では、各分野の到達度を把握し到達度範囲の全てを暗記することができる。 専門分野では、まとめる、理解し説明できる、読解するといった学習方略を身に付けることができる。						
回数	授 業 内 容						担 当
1	解剖学 (骨関節靭帯)						堀江貴文
2	解剖学 (筋起始・停止)						堀江貴文
3	解剖学 (脳解剖)、生理学						堀江貴文
4	運動学						堀江貴文
5	精神医学						堀江貴文
6	臨床心理学						堀江貴文
7~8	神経内科学 (脳血管疾患の共通・専門)						堀江貴文
9~10	神経内科学 (神経筋疾患の共通・専門)						堀江貴文
11~13	整形外科学 (共通・専門)						堀江貴文
14~15	評価学						堀江貴文
アクティブ ラーニング	e-learning 学習と講義を用いて、専門基礎分野と専門分野の理解と暗記を図る。 1. 科目担当教員から事前に分野の講義動画の提示がある。学生は提示された講義動画を聴講し、理解と暗記を図る。その後、学生は分野の問題を解く。 2. 分からなかった問題については、調べ学習を行ったり、学生間で話し合い、理解を深める。加えて、教員の指導の基、さらなる理解を深める。 3. 最後に難易度の異なる問題を解き、分からなかった問題については、上記と同様な方法を用いて理解を深める。						
評価基準	ペーパー試験 100% ※年間7回 (日程については別途提示する) ある試験のうち1回以上、総得点の4.5割を超える回があること。試験において、総得点4.5割未満は再試験を受験することができる。						
教科書	適時資料を配布する。						
参考書	国試の達人 運動解剖生理学編 (株)アイベック 国試の達人 臨床医学編 (株)アイベック 国試の達人 理学療法編 (株)アイベック						
実務経験に 関する記述							

授業科目名	コミュニティ・ベース・リハビリテーション (CBR)		(フリガナ) 担当教官名		オ 尾 シ 宍	ノ 野 ド 戸	ヒロ 寛 ヤ ス 容	ア キ 明 ヨ 代	ウ チ ・ 内 ヤマ	ダ 田 モ ト 本	サ キ 咲 マ リ 子	コ 子 マ リ 子
開講学期	前期											
対象学科 及び学年	理学療法学科 3年 作業療法学科 3年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	自由選択					
科目概要	<p>近年、人間の多様性の尊重等の強化がされる中、すべての虚弱な方々が自由なコミュニティや社会に効果的に参加することを可能とする目的で、リハビリテーションアプローチの一つである Community-Based Rehabilitation : CBR が用いられている。本科目ではフィールドワークを通じて地域の課題を分析し、理学療法・作業療法の視点を加えた解決のための策を見つけ、地域住民に対してプレゼンテーションを行う。</p> <p>※本科目は、選択科目となっています。</p> <p>※本科目は、2年次および3年次のどちらの学年でも履修可能です。</p>											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ CBR の概念を理解する。 ・ 地域住民や他職種との協業の意義や必要性を知る。 ・ 地域のインフォーマルな集団において、問題発見・解決を行う。 ・ プロジェクトマネジメントを学び、課題を期間内に遂行できる能力を身につける。 											
回数	授 業 内 容										担 当	
1	CBR の概念について説明、実践例などを調べる										尾野・内田 宍戸・山本	
2	地域を知る；横田地区の立地、人口などを調べる										尾野・山本	
3	地域を知る；三沢地区の立地、人口などを調べる										尾野・山本	
4	地域を知る；地域の人に聞く										尾野・山本	
5	現状調査；フィールドワーク										尾野・内田 宍戸・山本	
6	現状調査；フィールドワーク										尾野・内田 宍戸・山本	
7	現状調査；フィールドワーク										尾野・内田 山本	
8	現状調査；フィールドワーク										尾野・内田 山本	
9	PT・OT 視点での改善点作成										尾野・山本	
10	PT・OT 視点での改善点作成										尾野・山本	
11	発表資料準備										尾野・内田 山本	
12	発表資料準備										尾野・内田 山本	
13	発表資料準備										尾野・内田 山本	
14	地域での発表、意見交換会										尾野・内田 宍戸・山本	
15	地域での発表、意見交換会										尾野・内田 宍戸・山本	
アクティブ ラーニング	地域についてフィールドワークで得た情報から導き出した問題点などから、グループワークを行い、課題解決策を作成し、発表する。											
評価基準	授業内での態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況）、出席及び課題から総合評価 100%											
教科書	適宜紹介											
参考書	適宜紹介											
実務経験に 関する記述												

授業科目名	医療関連ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス (演習)		(フリガナ) 担当教官名		オノ 尾野 ヤスダ 安田 ヤマモト 山本	ヒロアキ 寛明 アヤカ 彩夏 マリコ 真理子	キツカフ 吉川 イト 糸賀	ヒデオ 英夫 ナツキ 夏樹	イシガメ 石亀 オチアイ 落合	ゴロウ 五郎 タカユキ 孝行
開講学期	前期									
対象学科 及び学年	理学療法学科 3年 作業療法学科 3年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	自由選択			
科目概要	<p>ビジネスを通じて地域課題解決を図る動きとして「ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス (SB・CB)」が注目を浴びている。集落の小さなビジネスが地域の健康づくりにつながることも多い。</p> <p>本科目では、奥出雲町で実際にSB・CBを手掛ける、若手関係者と対話を重ねるプログラムを実施する。彼らに密着する中で、自分たちの専門性を掛け合わせてできそうな小さな企画を考える。</p> <p>大多数の学生は、まずは専門職として医療機関や支援機関で働くことになる。一方で将来的に、地域の困りごとを解決しながら人々の健康づくりにつなげていく「コーディネーター」のような働き方や、地域で独立・起業するような働き方を思い描いている学生も増えている。そのためにも、専門職の技術と地域課題を掛け合わせる感性を持ち合わせてほしいと願っている。本プログラムを通じて、新たな領域を開拓する意識の養成を目指す。</p> <p>※本科目は、選択科目となっています。</p> <p>※本科目は、2年次および3年次のどちらの学年でも履修可能です。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> SB、CBの基本的概念を理解し、ビジネスを通じて地域課題解決に取り組む意義を理解する 複雑かつ多岐にわたる地域課題を俯瞰して今取り組むべき課題を抽出できる「課題設定能力」を身につける 地域まるごとリハビリテーションを追究するために、地域の様々な関係者と連携できる「対話力」「点と線をつなぐ力」を身につける 無理に企画を作るのではなく、地域の実践者たちの取り組みに専門技術を掛け合わせて試行錯誤できる感性を身につける 									
回数	授 業 内 容								担 当	
1	医療・福祉職がなぜ、ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスを学ぶのか。								尾野・吉川・石亀 安田・糸賀・落合 山本	
2	SB、CBの基本的概念：普通のビジネスと何が違うのかを理解する。								尾野・安田・山本	
3	SB、CBが生み出すもの：生きがい創出、健康増進など、ビジネスを通じた課題解決の可能性を学ぶ。								尾野・石亀・山本	
4	「小さな拠点」づくりとコミュニティビジネス：中山間地域の生活機能維持に向けたCBの役割を理解する。								尾野・安田 落合・山本	
5	医療福祉とSB・CB：地域医療・地域福祉領域の課題とSB・CBの最先端の事例を学ぶ。								尾野・石亀 糸賀・山本	
6～8	現地訪問(1)：町内の「小さな拠点づくり」の現場やコミュニティビジネスの取り組みを見学し、若手とアイデア会議をする								尾野・吉川・石亀 安田・糸賀・落合 山本	
9～11	現地訪問(2)：地域課題と自分たちの専門性を掛け合わせてできそうな小さな企画を考える								尾野・糸賀・落合 山本	
12～13	現地訪問(3)：地区の若手たちと協力して小さな企画を実施してみる								尾野・石亀・安田 落合・山本	
14～15	地域の関係者向けの報告会								尾野・吉川・石亀 安田・落合・山本	
アクティブ ラーニング	地域のフィールドワークや実践者たちとの対話から自分なりの視点で課題を見つけ出し、自分たちができそうな小さな企画を考えて発表する。									
評価基準	地域の関係者向けの報告会プレゼンで評価									
教科書	適宜資料を配布する。									
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 尾野寛明・中村香菜子・大美光代『わたしをつくるまちづくり～地域をマジメに遊ぶ実践者たち』(コールサック社、2021年) 竹端寛・尾野寛明(編著)『無理しない地域づくりの学校 私からはじまるコミュニティワーク』(ミネルヴァ書房、2017年) 									
実務経験に 関する記述										